

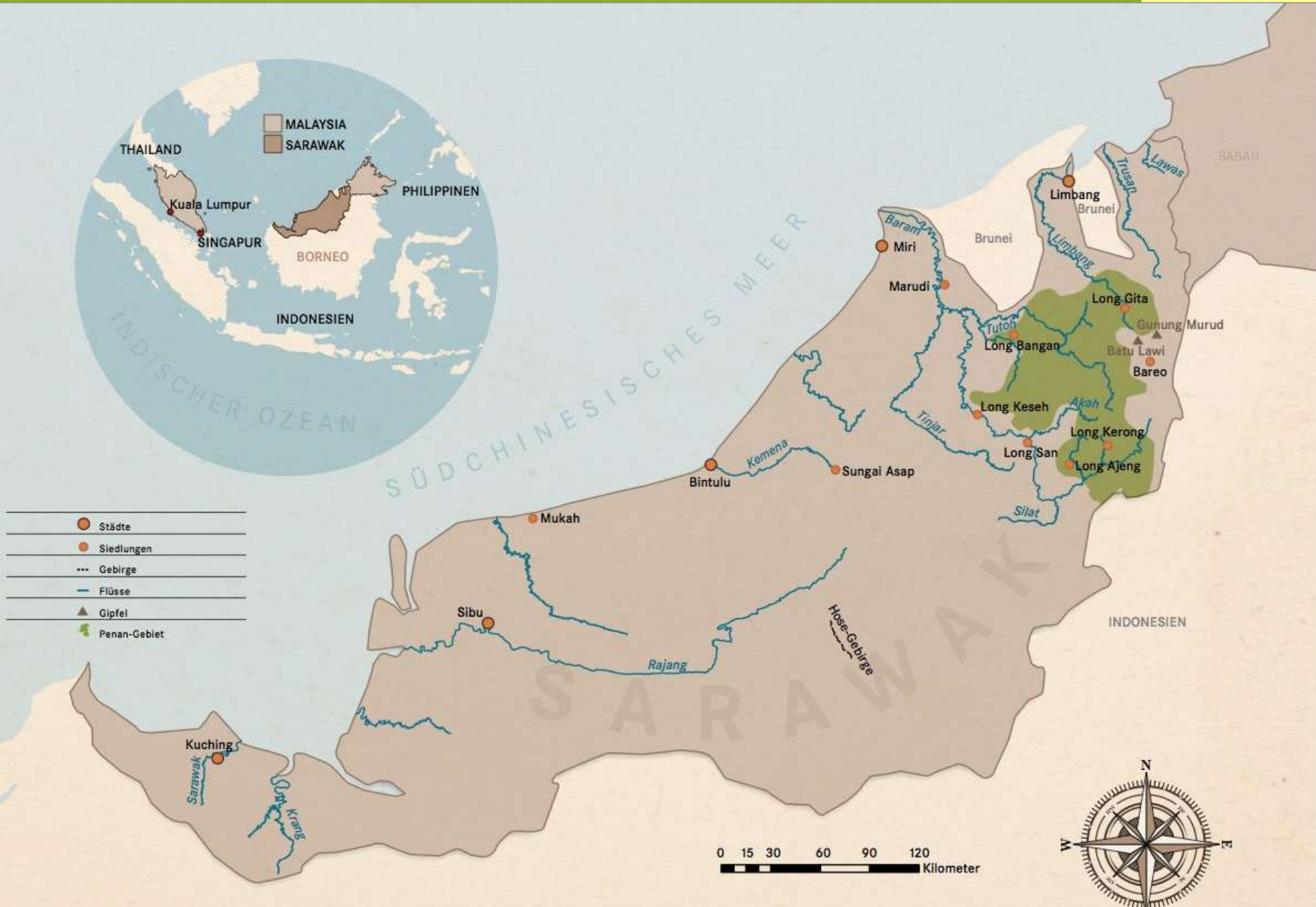
ボルネオ島熱帯林に由来する木材サプライチェーン と需要に潜むリスクーサムリン社とMTCS



3/18【企業向けウェビナー】

Annina Aeberli, PhD (Campaigner, Bruno Manser Fund)

サラワクーマレーシア最大の州



ブルーノ・マンサー基金

ブルーノ・マンサーが設立した
スイスの団体
11名のスタッフを擁し、
スイス・バーゼルに本拠を置く

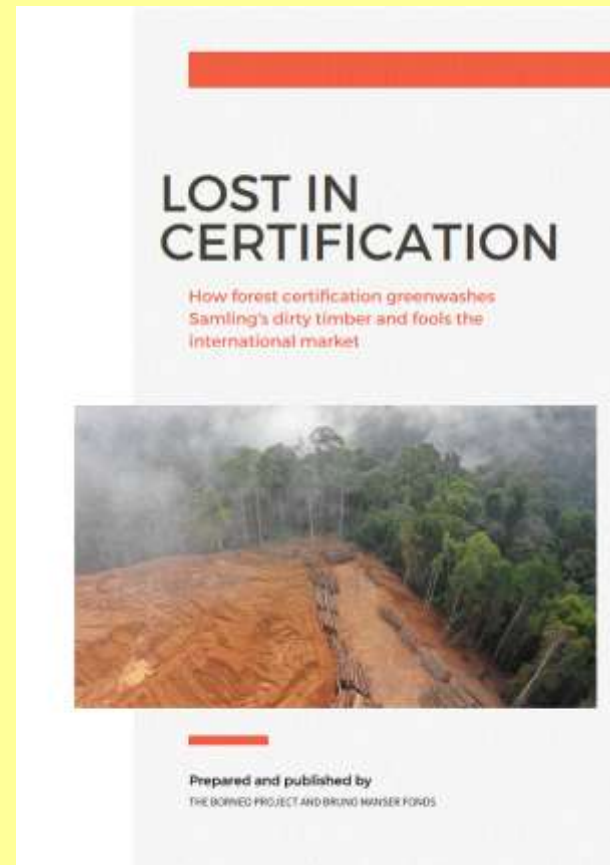


目的:

- 人権／先住民の権利の尊重
- 森林の保護(サラワク)
- 保健、教育、インフラストラクチャー、代替収入
などの分野での援助によるプナン人への支援
- 汚職撲滅と透明性のあるガバナンスへのコミットメント
- サラワクの先住民文化の記録

サラワク産の認証木材

- マレーシア木材認証制度(MTCS)
PEFCインターナショナルと相互承認
- サムリン:サムリン・グローバル傘下に
65社以上をおさめる
- BMF/Borneo Projectによる新しい
報告書2023
- サムリン社がMTCSに適合としない
と思われる問題点をレポート
- MTCCが独自のMTCS基準を保証
できるかどうか疑問を呈している
- 日本(およびその他)のサプライチェーン
におけるサムリン社木材を明らかに

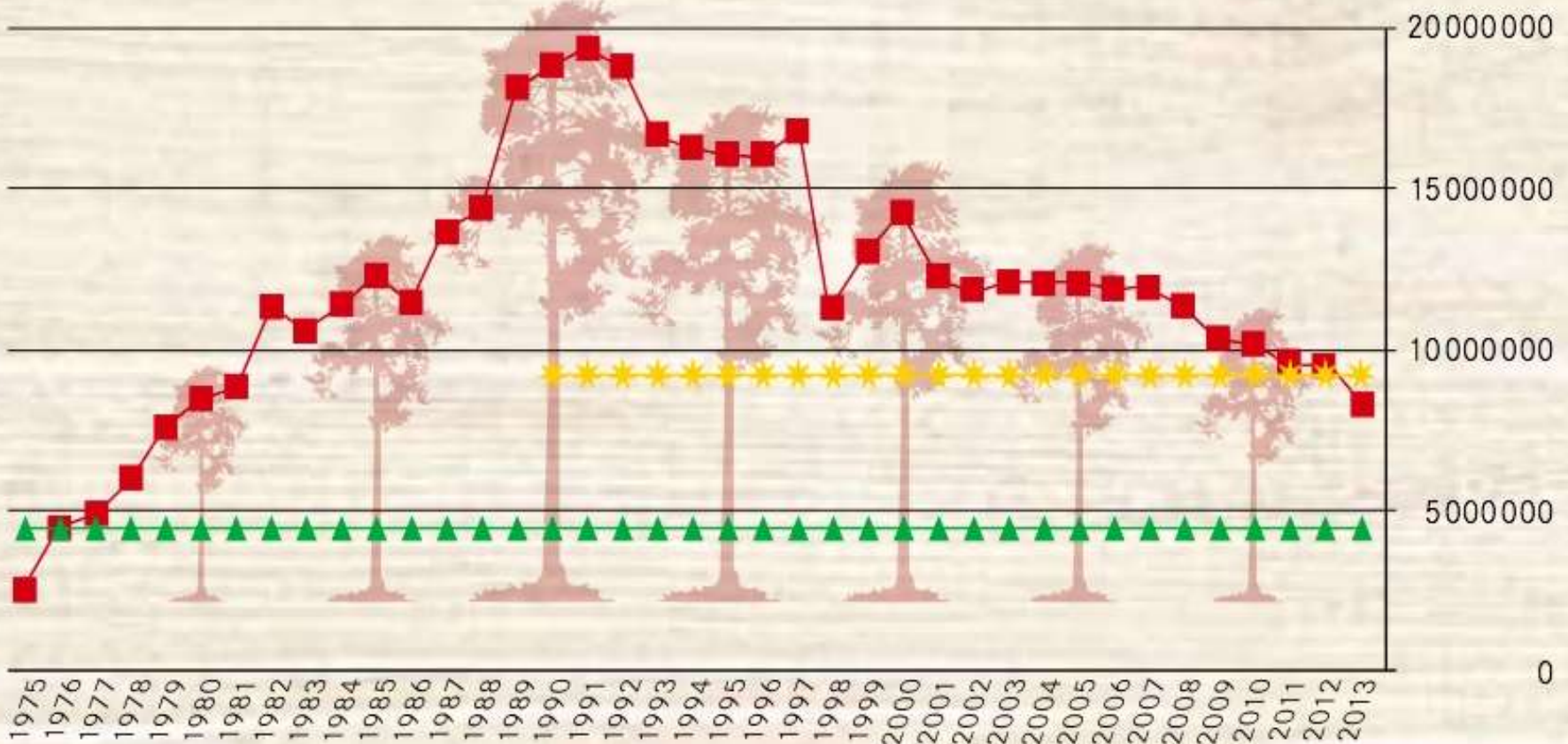


[遺漏の認証制度ーサムリン社の汚れた木材を隠蔽し、国際市場を欺く森林認証の実態](#)

(JATAN抄訳版)

サラワクにおける丸太生産推移 (1975-2013)

(LOG PRODUKTION IN M³)



■ Log production in m³

★ ITTO recommendation in m³

▲ FAO recommendation in m³

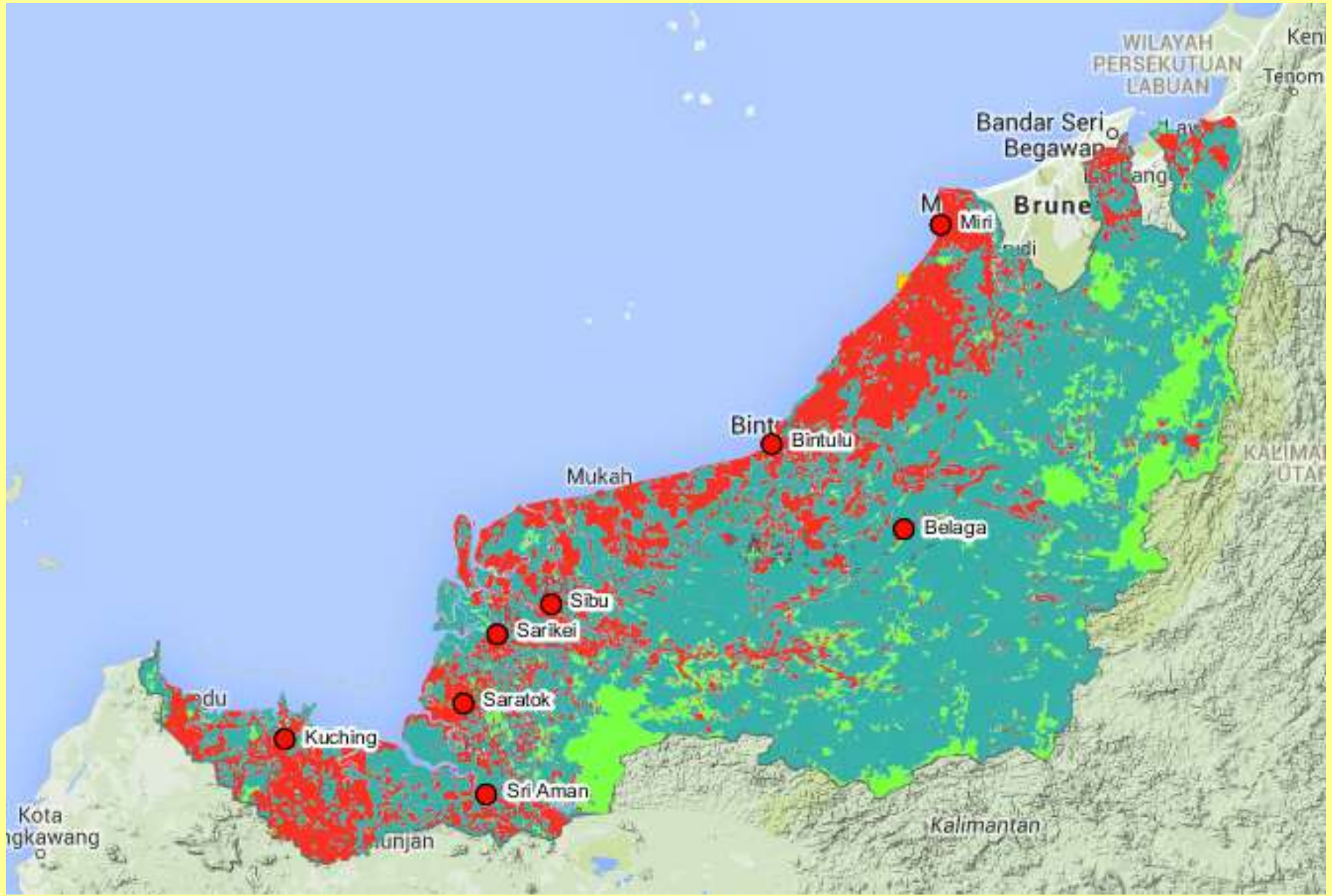
森林被覆 1960

bruno
manser
fonds



森林被覆 2010

bruno
manser
fonds



サラワクにおけるサムリンのコンセッション (伐採権地、産業植林、アブラヤシ農園)



サムリン社コンセッション

植林コンセッション

伐採コンセッション

アブラヤシコンセッション



森林転換

MTCS原則6:環境影響

原則6.10

他の土地利用への森林転換は、「**認証FMUの総面積の5%以下**」と定義される、「**FMU(森林管理ユニット)のごく限られた部分**」を伴う場合を除き、行ってはならない



施業中の森林転換

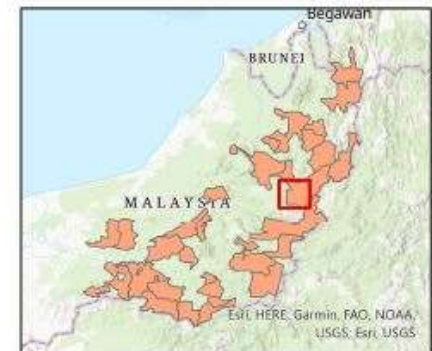
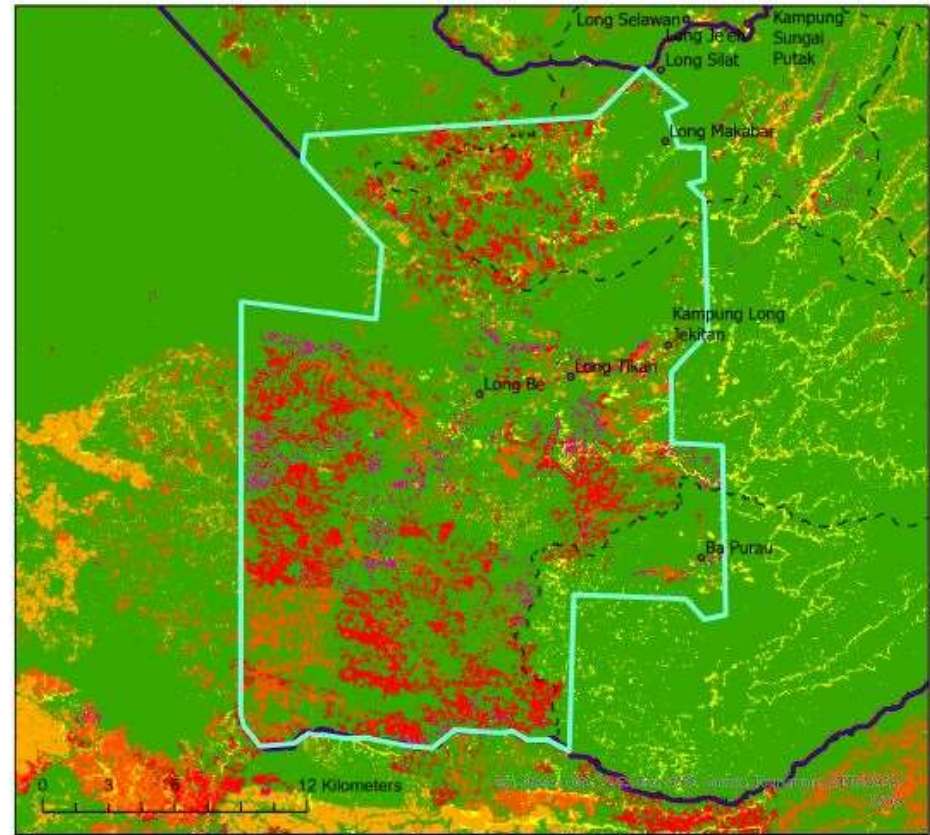
ジェレナイ(Gerenai)FMU
5万ヘクタールの森林がアブラヤシ農園に転換

こうした土地転換は

- **MTCS/PEFC**
- マレーシア持続可能なパーム油 (MSPO) & 持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO)
- 森林デューデリジェンス規則 (EUDR)

に違反

ジェレナイFMU内の伐採



先住民の権利

MTCS原則3 先住民の権利

原則3.1: 「先住民は、自由意思に基づく事前のインフォームド・コンセント(FPIC)に基づき、他の機関や当事者に管理を委任しない限り、自らの土地や領土における森林管理を管理するものとする」



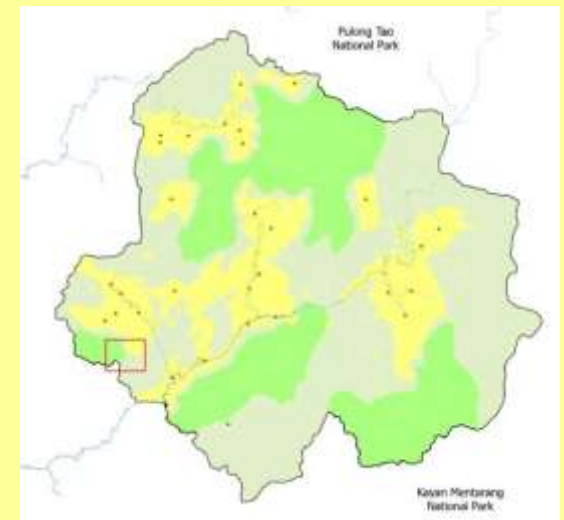
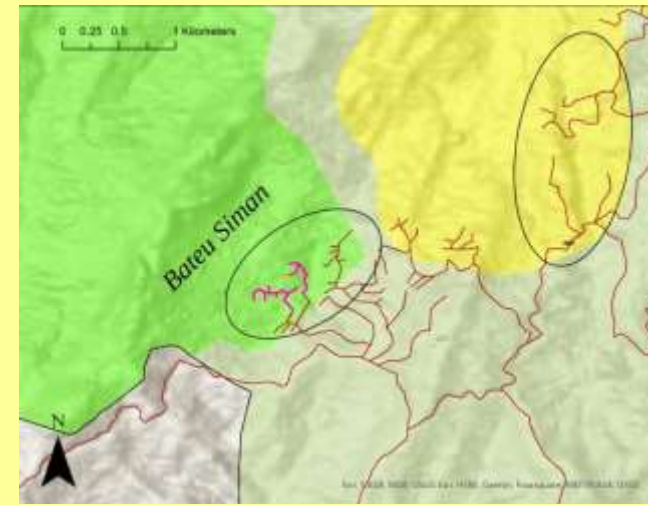
先住民コミュニティとの対立



- 透明性の欠如
- 特定の村が地図上や協議の場で開示されていない
- コミュニティが森林資源に依存していることの無視
- 認証プロセスや伐採におけるFPICの欠如が疑われる
- 森林保全のためのコミュニティのイニシアチブの無視

保護地域における伐採

- **2022年:** バラム上流森林地域(UBFA)の中核的保護区予定地内での伐採
- **2018年:** ケニヤ人コミュニティの共有林での伐採



サムリンによる名誉毀損訴訟

- 2021年: サムリン、中傷の疑いで草の根NGOのSAVE Riversを提訴
- 2022年: 国連特別報告者は、訴訟が「市民の関与を排除するための訴訟戦術」(SLAPP)に分類しかねないと指摘
- 2023年: サムリン、訴えを取り下げる



欠陥だらけの苦情処理手続き

● サムリン

- 歴史的に地域住民の苦情に対応していない
- 2022年によようやく正式な苦情処理手続き

● MTCS

- 公式な苦情処理手続きは2020年時点でオンライン化されていない
- 特にコミュニティにとって手続きは非常に複雑
- 2023年、MTCSの苦情処理手続きはより難しくなった
- 認証の停止と取り消しに関する明確なガイドラインがない



公的機関からの警告

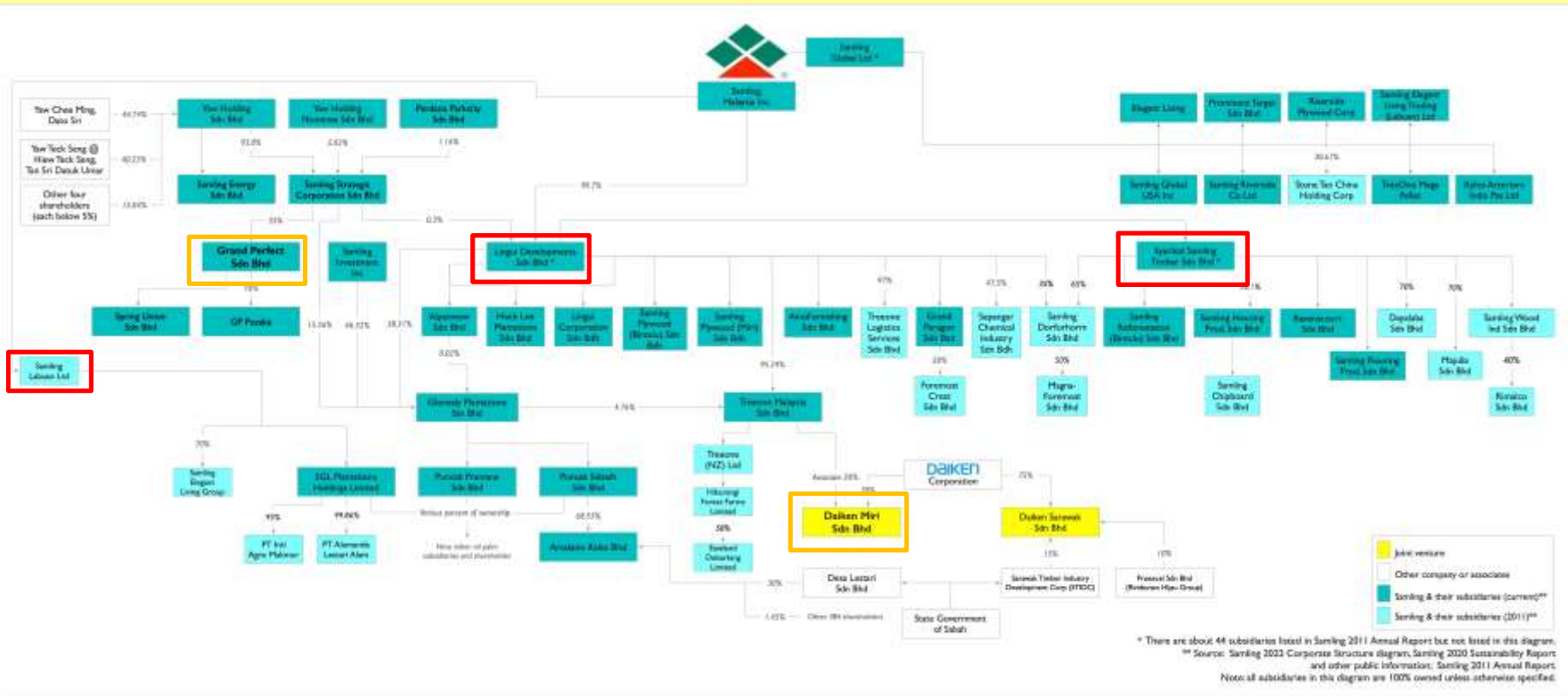
- **FSC、サムリン社を調査**
- **スタンダード・マレーシアが認証機関SIRIMを調査
停止と撤回に関する明確なガイドラインなし**
- **オランダ政府**
 - **PEFCにMTCSの調査を要請**
 - **MTCSに対するPEFCの監視の役割を疑問視**
 - **MTCCが自らの基準を保証できるか疑問**

→ PEFCは証拠を提出しなければならない

サムリン社の企業構造

- 林産物を扱う65社を傘下におさめる

サムリン社の企業構造



日本へのサプライチェーンに 連なるサムリン社木材

- ・ 合板
 - 日本は最大のマレーシア産合板の輸入国
 - 伊藤忠建材と大建工業が歴代、パートナーシップを構築



日本のサプライチェーンにおける サムリン材

- 中密度繊維板(MDF)
- 日本はサラワクで生産されるMDFの65%を輸入
- 大建工業ミリ社はアカシアとフタバガキ科の熱帯広葉樹の混合材を使用
- テクウッド/テクウッドエースというブランドで取引されている



日本のサプライチェーンにおける サムリン材

- アスト・インドネシア社 (ASTI)(住友林業)に 6,100トンの TEKWOOD
- PT Matsuzawa Pelita Furniture Indonesia(松澤功藝株式会社)に1,300トンのテクウッドを販売



日本におけるサムリン社顧客企業

仕向国	顧客企業	業態	製品・ブランド	提供先
日本	伊藤忠建材	建材商社	合板／引き板	日本市場
	大建工業	建築資材	「テクウッド」(MDF)	日本市場
インドネシア	PT Matsuzawa Pelita Furniture Indonesia (松澤功藝)	木製家具部材製造・販売	「テクウッド」／「テクウッドエース」(MDF)	パナソニック、河合楽器、タカラスタンダード
	アスト・インドネシア社 (住友林業)	木工家具・楽器等製造・販売	「テクウッド」／「テクウッドエース」(MDF)	良品計画、TOTO、シモンズ、ローランド、ForestOne (オーストラリア)

日本企業の役割

- **日本は世界トップのMTCS認証製品輸入国**
- **サラワクとMTCS認証製品: 高リスク**
- **日本企業はこうした状況を変えられる**



ご清聴ありがとうございました。

bruno
manser
fonds

